

抄 録

## オニオコゼの種苗生産と放流技術に関する研究

清川智之・道根 淳・佐々木正・開内 洋<sup>1</sup>

### Seed Production and Release Experiment of Scorpaenid Fish, *Inimicus Japonicus*

Tomoyuki Kiyokawa, Atsushi Michine, Tadashi Sasaki and Hiroshi Hirakiuchi

キーワード：オニオコゼ，種苗生産，放流技術

オニオコゼ (*Inimicus japonicus*) は，日本海側では新潟県以南の沿岸に分布する岩礁性底魚である。島根県では主に刺し網や底びき網で漁獲され，漁獲量は年間2～3トン程度であるが，白身で美味なため高級魚として取り扱われている。

本県では，オニオコゼの資源の維持増大を図るための一環として人工種苗生産と放流技術開発が行われている。著者らは平成12年度～16年度にかけてこれらに関する基礎的研究を実施してきたが，以下の知見を得たので報告する。

#### 1) 種苗生産技術開発

平成12～13年度には生物餌料の二次培養方法などの基本的な飼育技術の見直しにより，着底魚5万尾以上の取り上げを，平成14年度には細菌の制御，特に *Vibrio* 属細菌の低減を目的としたニフルスチレン酸ナトリウムによる定期的な薬浴やいわゆる「ほっとけ飼育」法を導入した結果，複数の試験区での生残率30%以上を達成した。また，平成15年度には養殖環境改善剤を用い，薬剤使用と同等の生残率を得ることができた。

#### 2) 放流技術開発

従来行われていた1歳魚の放流に比べて低コストの当歳魚の放流を実施し，これらを比較することにより，当歳魚放流の有効性を検討した。1歳魚と当

歳魚を同程度放流した際の混獲率で比較した場合，中間育成費の減少よりも，混獲率低下による回収尾数の減少が相当に大きくなることが予想された。このことから当歳魚放流は1歳魚放流ほどの回収が期待できないことが示唆された。

### 発 表 論 文

- 清川智之・曾田一志・佐々木正 (2000) 島根県東部沿岸における放流オニオコゼ人工魚の再捕状況について。栽培漁業技術開発研究, 28 (1), 17-23.  
平成12年度 資源増大技術開発事業報告書 (魚類Aグループ), 島根-1-~島根-14-。  
平成13年度 資源増大技術開発事業報告書 (魚類Aグループ), 島根-1-~島根-16-。  
平成14年度 資源増大技術開発事業報告書 (魚類Aグループ), 島根-1-~島根-11-。  
平成15年度 資源増大技術開発事業報告書 (地域型中・底層性種グループ), 島根-1-~島根-12-。  
清川智之・佐々木正 (2005) オニオコゼ仔稚魚飼育における大量斃死軽減のための2, 3の試み。栽培漁業技術開発研究, 32 (1), 5-13。  
平成16年度 栽培漁業技術開発事業報告書 (地域型中・底層性種グループ), 島根-1-~島根-12-。

<sup>1</sup> 現所属：島根県内水面水産試験場 Shimane Prefectural Inland Fisheries Experimental Station, 1659-1 Sono, Izumo 691-0076, Japan